日本共産党 前杉並区議会議員
X(旧Twitter)@akikocurry
ブレずに平和。
まっすぐ、くらし。

のがき
野垣あきこ と
まちづくりカフェ
HP はコチラ
2026年10月号
連絡先 090-9293-8710 ご相談もどうぞ！

杉並区議会第3回定例会

インフル予防接種18歳まで助成、児童館機能強化へ

杉並区議会定例会が開催中です。９月１８日の保健福祉委員会では、子ども・子育て施策を中心に、重要な報告がありました。

小児インフルエンザワクチン

インフルエンザ予防接種の費用助成が、これまでの１２歳までから高校３年生相当（１８歳）までに拡大されます。１０月１日から来年１月３１日まで、注射ワクチンは１回2,000円、経鼻ワクチンは１回4,000円を助成します。

１３歳以上の注射ワクチンは１回が対象です。詳細は右の保健福祉委員会の資料をご確認ください。

地域の子どもの居場所の拠点・児童館

杉並区は、前区政時代の児童館廃止・再編の方針を見直し、現在の児童館を存置・整備するとともに、強化の方向へ大きく転換しています。区の検証でも、学校内の居場所にはない「児童館ならではの特性」が確認されています。

今回、福祉的な課題を抱える子どもへの対応や、地域の様々な居場所をつなぐネットワークづくりなど、児童館を地域の拠点として強化する具体策が示されました。

今後重要なのは、児童館が残っている地域だけではなく、児童館がなくなった地域への対応です。党区議団は、全ての子どもが地域で安心して過ごせる居場所を持てるよう、地域間の格差を生じさせない整備を求めます。

児童館の機能強化　基本的な考え方（保健福祉委員会資料より）

現在の児童館が果たしている機能・役割を踏まえつつ、以下の7つの取組を推進することにより、児童館の機能強化を図ります。令和9年度から各取組を開始し、先行館において実践事例の研究やマニュアルの整備、事例集の作成などを進めた上で、令和10年度から25館に展開します。

居場所づくり基本方針で示す視点		取組	
1	福祉的課題への対応力の強化	①	不登校の子どもの居場所としての取組
		②	子どもの貧困対策に資する取組
2	子どもの参画（子どもが意見を述べる場の提供）の充実	③	子どもの参画のための取組
3	担当地域内の子どもの居場所ネットワークづくり	④	地域にある様々な居場所をつなぐ新たなネットワークの構築
4	多様な担い手による子どもの居場所づくり、居場所の運営への支援	⑤	児童館を活用した地域団体支援の取組
5	障害のある子どもや外国籍の子どもなど、様々な状況に置かれた子どもが安心して過ごすことができるインクルーシブな環境づくり	⑥	障害のある子どものための取組
		⑦	外国籍の子どものための取組

「まちづくり」の対話の場

下井草まちづくりラボ　商店街と一緒に将来像を考える

９月１９日、杉並区は、第12回下井草まちづくりラボを開催し、私も参加しました。

駅周辺の商業とにぎわいについて

初めに、駅北側の井草北商店会と南側の下井草商店街振興組合の代表にファシリテーターがインタビューし、地域と商店街の変化、下井草の魅力、将来への想いなどを聞きました。

商店街からは、生鮮や飲食店が減り、塾や病院が増えていること、店主の高齢化などの悩みがある一方、イベントやＳＮＳでの発信、物を売るだけでなく人とのつながりを大事にしていることが語られました。

区は、資料として駅周辺の３０年前と現在の店舗の移り変わり、人口の増加と年齢層の変化などのデータも配布しました。

参加者からは、チェーン店は商店街に協力してくれるのか？など、次々に質問が出されました。旧早稲田通りが通りにくいことは、商店街も住民も共通の課題でした。

私は、まちづくりを考える上で、商店街の意見や協力は不可欠だと思っていたため、とても良い機会だと思いました。

グループワークでは、にぎわいの将来像を出し合いました。

私の班では、歩きやすさ、にぎわいを支えるインフラ（駐輪場や西武線の地下化）、程良い密度の商店街、人とのふれあい、個人店を増やすなど、たくさんの意見やアイディアが出されました。

他の班では、発表ができるまち、家がお店の延長になる場所（民家の１階でお店）などのユニークなアイディアもありました。

参加者からは、グループワークの時間を増やすべきで議論にまで至らない、という時間配分への意見も寄せられました。

グループワークで出された意見やアイディアをまとめる◀

女性、子ども、若者の参加が増える

ラボには地域の小中学生も参加しています。この取り組みが始まった４年程前と比べ、女性や子ども、若者の参加が増え、多様な意見が出されるようになったのは前進だと感じました。

まちを一緒に作っていきたい

最後に、商店街の方からは、次の商店街の集まりで今日のことを伝えたい、参加して勉強になった、まちを一緒に作っていきたいと前向きなコメントがありました。

次回は１０月２４日（土）、今回描いたまちの将来像を実現するため、参加者が主体となってできることを考えます。

また、西武新宿線の野方～井荻間の連続立体交差化は地下化に、の住民の声を届けるために引き続き頑張ります。

前回の第11回下井草まちづくりラボ（6月20日）は、区議会議員補欠選挙の直前だったために、私は参加できませんでした。

区HPにはこれまでの経過や資料も掲載されており、ラボの参加者有志で結成された「サブラボ下井草未来創造チーム」から、「旧早稲田通りの安全化」をテーマに継続的に取り組んできた調査・分析の成果も入っています。内容は右からご覧になれます。

元首相襲撃事件と山上裁判

旧統一教会といかに闘ってきたのか　鈴木エイト氏講演会

満席の会場で語る鈴木エイト氏

鈴木エイト　ジャーナリスト・作家
1968年滋賀県生まれ、日本大学卒
鈴木エイトの調査報道ファイル▶

１０月３日、日本共産党杉並後援会は、ジャーナリストの鈴木エイト氏を招いて講演会を開催し、１０９名が参加しました。

社会問題の犠牲者
山上被告を一人にしてはいけない

講師が統一教会（以下、協会）に関わったきっかけは、２００２年に渋谷駅で行っていた勧誘活動を目撃し介入したことからでした。杉並にも南阿佐ヶ谷や荻窪に勧誘を目的とした協会のビデオセンターがあったそうです。

新たな被害、協会と政治家との癒着

解散命令後も、日本から韓国の協会に多額の送金されており、後継団体の「孝情教育文化財団」（天地正教）の現状と新たな被害への懸念があることを語りました。

また、選挙で自民党候補を支援したり、協会の会合に政治家が参加したこと等を書いたＴＭ文書の報道をはじめ、多くの政治家との癒着も突き止めました。最近では、素性を隠した団体を名乗り、地方議会に陳情を出すなどの動きもあるそうです。

２世問題と山上被告の裁判

講師は、取材を続けるうちに、信者も被害者という風に見るようになり、宗教２世問題にも取り組むようになりました。

山上裁判では傍聴を続け、本人に面会し取材していました。事件の前に被告からアクセスがあったことや犯行動機の飛躍、なぜ安倍首相がターゲットになったのか等を語りました。これらの内容は、著作「アンビバレント」で明らかにされています。

被告は無期懲役判決を受けましたが、社会問題の犠牲者である被告一人に背負わせてはいけないと強調しました。確かに、日本では協会と関係の深い議員の入閣や、韓国のように政界汚職にメスが入らないなど、日本の主権や本質を見誤るような報道も多く、歯がゆさを感じます。

講演後は参加者から多くの質問や感想が出され、丁寧に回答していました。

また、講師は協会側からスラップ訴訟を起こされていましたが、今月８日に勝訴判決が出たことでも注目されています。

◆日本共産党としんぶん赤旗は統一教会を「統一協会」と書きます。そもそも団体の正式名称は「世界基督教統一神霊協会」で、当初は「統一協会」の略称も使われていました。その後、普通のキリスト教会とまぎらわしい「統一教会」に転じ、メディアにも「統一教会」と表記するよう執拗に求めてきました。

そのため、今では多くのメディアが「統一教会」と書くように。しかし霊感商法や集団結婚などで社会的批判をあびてきたカルト集団であることに変わりなく、政府が名称変更を認めたこと自体が不当だと考えるからです。

杉並区議会議員選挙に向けて

荻窪駅南側の地域　くすやま美紀区議からバトンタッチ

くすやま美紀区議の勇退にともなって

来年４月の区議会議員選挙にあたり、７期２８年区議会議員を務めたくすやま美紀議員が勇退することになりました。

そのため、くすやま区議の活動地域の一部を私、野垣あきこが引き継いで活動させていただくこととなりました。

６月の区議会議員補欠選挙では、くすやま区議地域のみなさんにも大きなご支持ご支援をいただき、大変お世話になりました。

４月にはなんとしてもくすやま区議の後を受け継ぎ、地域の要求実現のために全力をあげます。どうか、みなさんのご協力をよろしくお願いします。

現在の担当地域

本天沼、天沼、上荻１～３丁目
井草１～３丁目、下井草、清水

加えて、くすやま区議から引き継ぐ地域

荻窪４・５丁目、南荻窪１・４丁目全域と２・３丁目の一部、宮前２丁目

LINEでも情報発信・交流

日本共産党杉並地区委員会では、杉並区内のイベントや街頭演説、区議会・都議会の情報をお知らせする「ＪＣＰ杉並ＬＩＮＥ公式」を発信しています。

また、野垣あきこを応援し、交流やお知らせをするＬＩＮＥオープンチャット「あきこの部屋」へのご参加もお待ちしています。

右の二次元コードからアクセスできますので、ぜひみなさんの登録をよろしくお願いします。

JCP 杉並 LINE 公式

LINE オープンチャット「あきこの部屋」

【あきこの部屋】

映画「ファーストボイス」を観た。男女差別やセクハラが当たり前だった８０年代、初のハラスメント裁判に立ち上がった女性たちを描いた作品。こうしたたたかいがあったからこそ、ジェンダー差別やハラスメントを可視化することができた。原告への誤解や二次被害、女性弁護士たちの団結、子育てしながら働くこと、支援者との関係など、シスターフッドが生まれるまでのリアル！当時の景観やファッション、流行文化も懐かしいが、今では考えられないような酷い言葉や慣習で溢れていた時代でもあった。そして、この裁判には私も入っている新日本婦人の会も深く関わっている。女性たちの困難や差別がある限り、私たちのたたかいはこれからも続く。